

新型コロナウイルス感染症・豪雨災害アンケート

○ 新型コロナウイルス感染症関連

団体名	1. 自粛期間中外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
<p>認知症の人と家族の会 広島県支部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●感染者情報で非公開になっていることがある。個人情報の保護での対応で仕方がないこともわかるが、せめて感染経路だけでも情報公開していただけると、罹患していないものに対して少しでも不安解消になるのではと思います。不安が先走り、予定していた訪問を取りやめました。 ●自粛期間中は比較的マナーが良かったが、最近若い世代(高校生若しくは大学生と思われる年代)のグループが、電車内でマスクを着用せず、大声で会話しているのが目立つようになった。特に、若い世代に新型コロナウイルス感染症に対する緊張感が大きく緩んできた感じがする。 ●自粛期間中は外出しないように心掛けて、どうしても外出する場合は、必要最低限度にして、帰宅するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問のキャンセル、家族の集いは中止しましたが、メールで連絡を取り合いました。 ●グループから離れて立つか、他の車両に移動する。 ●不要不急の外出は控える ●外食はなるべくしない。 ●出かける時は計画を立てて素早く済ませます。 ●スーパーなどの買い物はなるべくすいた時間に利用する。 ●地域の感染状況に注意する。 ●多く人が集まる場所へは行かないようにする。 ●発症した時のために、誰と何処で会ったかをメモしておく。 ●自粛が解除されて再開後は、①会場の机・椅子の消毒、②換気、③間をあけての着席、④参加者の検温をして、感染予防に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の外出の機会(各種会合、趣味の活動、健康体操など)がコロナで中止になり、気力、体力の衰えを懸念したグループが、人混みを避けた早朝散歩を始めた事例がある。目先を変えるために、空いた時間帯に電車を利用して、一駅か二駅まで移動して散歩している事例もある。 ●コロナウイルス規制対象となるグッズは、セットの袋を作り、携帯している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の特徴として、症状の出していない感染者でも感染力を有する点の理解と、他人に感染させないという配慮が、特に若い世代に希薄のように見える。公共交通機関を利用している年配者には、これが非常に不安である。啓発の強化を望む。
<p>広島県手をつなぐ育成会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●マスクができない特性があり、空いている時間に電車などを利用しようとしたが、冷たい目で見られたので、引きこもりになってしまった。 ●知的障害者の就労先はリモートワークなどが出来ない職種(そうじやバックヤードなど)が多く、運転免許もないので公共交通機関で通勤していたが、途中で感染するのではないかと心配だった。 ●移動支援(外出のヘルパー)さんとお出かけの時に、公共交通機関での移動が難しくタクシーを利用したため、交通費がとてまかかりました。 ●新型コロナウイルス感染拡大期間中は、外出を制限せざるを得ませんでした。緊急事態宣言解除後から外出制限を緩和し、公共交通機関は極力使わないで外出をすることとしました。現在でもバス、電車などの公共交通機関の利用はリスクを伴うことから控えています。(施設保護者会より) 	<ul style="list-style-type: none"> ●諦めることしかできませんでした。 ●公共交通機関を利用しなくてもいいように、親が会社を休んで送迎した ●タクシー利用をした ●一人で外出が出来る方についても、施設の車両で職員の付き添いで移動支援を行いました。(施設保護者会より) 	<p style="text-align: center;">-</p>	<p style="text-align: center;">-</p>

○ 新型コロナウイルス感染症関連

団体名	1. 自粛期間中外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
全国脊髄損傷者連 合会広島県支部	<p>●外出自粛により外出する人が少ないかと思っていたが、スーパーの駐車場には車が多く、買い物客も多かった。また、我先と商品を手にとろうとする人が多く、身体を寄せて頭越しに商品を取りに来る人が多かった。</p>	<p>●密にならないように、他の買い物客が通り過ぎるのを待ったり、商品棚をぐるっと一周したりした。</p>	-	-
広島県視覚障害者 団体連合会	<p>●同行援護をお願いしたが、感染症を理由に派遣拒否があった。 ●同行援護を自粛した為、散歩等の運動不足となった。 ●感染症を移す恐れがあり外出を自粛した。 ●外出時に周りの方に支援を頼みにくくなった。 ●バスの座席、二人がけが一人がけになっていて、ヘルパーさんと離れ離れになり不安だった。 ●お店等のレジにシールドが貼られて困った。</p>	<p>●特にいつもと変わらず行動した。 ●マスクの着用、行き先でのアルコール消毒を徹底した。</p>	<p>●外出機会そのものが少ないが、出かけた時はいつもより電車がすいていて楽だった</p>	<p>●大きな災害では、119はまったく当てにならない、という事を学んだ ●逆にいうと、我々障害者こそ、人に頼らずその勉強をし、準備をして早めに対応すべきだと感じた。 ●避難所が、その地区内で逃げ遅れている人の把握をすべきと思う。 ●119から避難所の地域消防へ連絡が行きそこから助けに出る体制が必要である ●A市、視覚障害者と行政との話し合いが持てた。 ●A市、ボランティアさんの協力で、声のハザードマップを作製した。</p>
広島県身体障害者 団体連合会	<p>A、難聴者－会話の時、感染防止マスクで口の動きが見えないため聞き取りが難しい B、内部疾患－人工透析者、心臓疾患等コロナウイルスに感染すると即、死亡の危険性が高いため密の場所に出向いてゆけない。また災害避難時に避難所が密になると感染リスクが怖い。 C、下肢障害(車いす)－避難所の密の中で移動、ベッド、トイレの確保や支援の依頼のお願いがためらいがちになる。</p>	<p>A、会話の時向き合わないで、マスクを外してもらった。 BC、早期に、親戚またはバリアフリー完備の宿泊施設に避難。</p>	-	-

○ 新型コロナウイルス感染症関連

団体名	1. 自粛期間中外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
<p>広島難病団体連絡協議会</p>	<p>(1) 難病患者は長期慢性疾患患者でもあるため、とりわけ新型コロナ感染予防のための慎重な対策が必須である。遠方の病院への通院にタクシー利用は経済的負担もあり、公共交通機関を利用すると感染リスクが高くなり、命を繋ぐ通院を躊躇した。 (2) 年に1度の「指定難病受給者証」更新の申請時期に当たったが、病院に向いての診断書の取得と行政窓口での申請手続きに公共交通機関の利用は控えざるを得なかった。</p>	<p>(1) 悪化した場合を除き、比較的安定している難病患者に対しては主治医より処方箋を出してもらい、服薬のみで凌いでいる。 (2) 難病患者会や各県にある難病連が加盟する「日本難病疾病団体連絡協議会(通称JPA)」より厚労省に緊急要望書を提出し、「指定難病受給者証」更新の手続きは1年延長できることとなった。</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>高次脳機能障害サポートネットひろしま</p>	<p>●マスクの着用には常に声掛けが必要で、暑くなり人のいないときは外してよいと言うと、次に必要な時につけるのを忘れてしまう。暑さや水分補給など、臨機応変には対応できない。一つ一つ支持が必要。しかし、外見は普通で、知的レベルが低いわけではなく、中途障害で、もともと何でもできていた人なので、プライドがある。だから声掛けに注意が必要。</p>	<p>●本人ひとりの行動が多く、出かけるときにはマスクの着用など言い聞かせてはいるが、すぐ忘れるので、どうしているのか気がかりです。</p>	<p>●いつも乗っている電車が空いているので、当事者にとっては快適だったようです。</p>	<p>●せっかく就職が決まった方が、今回のコロナのせいで、出勤時間が不規則になり、生活が乱れてしまい、困ったケースもあります。臨機応変が一番出来ない障害なので、支援者も大変な思いをしています。 ●外見では見えにくい障害なので、周りの理解が一番大切です。</p>
<p>障害者生活支援センターてごーす</p>	<p>① どのような場合不要不急の外出になるのか明確に理解することが出来ず、事務所等に向かうことも自粛した。その結果として情報の共有等に困難が生じた。 ② 重複障害(身体と知的)の方が移動支援を使って一日に数時間外に出ることを望んでいるが、介助者は新型コロナウイルス感染リスクを避けつつ利用者のニーズに応じるためにはどこに行けばよいか、またどのような交通機関を利用すればよいかかわからなかった。 ③ 講演会や募金等の啓発活動を行うことが困難になった。 ④ 移動支援を使っている利用者が、自粛期間中外出することを恐れて介護派遣を中止したため、事業所とすればかなりの痛手となった。 ⑤ 交通機関を利用する際に周囲の目が気になりマスクをしないといけないがマスクをすると、口でタッチペンを扱ことが出来ないので移動中にスマホを操作できない。</p>	<p>① リモート会議ができる環境を整えた。リモート会議に伴い移動支援が減少した。その結果として介助者の労働時間が減り、給与が減少する問題に関しては雇用調整助成金を申請した。 ② 公共交通機関は原則として利用を控えるように指示し、所謂「密」を避けつつ利用者が気分転換できるようにすることを提案した。 ③ なし ④ 雇用調整助成金を申請した。 ⑤ なし</p>	<p>決まった時間に事務所に来ることが困難だった人もリモート会議だと参加しやすくなった。</p>	<p>リモート会議等のため家で過ごす時間が増えたことにストレスが溜まりやすくなった。</p>

○ 豪雨災害関連

団体名	1. 災害発生時外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
認知症の人と家族の会 広島県支部	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関の運行情報が、テレビのテロップで流されたが、短期間で切れて読み取れなかった。駅に問い合わせても、電話が繋がらなくて困った。こうした声が年配者から多く聞かれた。 ●小さい川ですが、水が氾濫し、下流では家屋浸水があり、大変な状況でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若い人にスマホで検索してもらって、やっと情報を得ることができたという人もいる。 ●氾濫後、町より橋に水位計が設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関の運行状況情報を高齢者の仲間同士で交換したという事例がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時の公共交通機関運行状況情報の流し方について、配慮してもらいたい。
広島県手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学校に通う子どもがスクールバスの停留所が遠くになり、障害がある子どもを送るのにとっても大変でした。 ●作業所やヘルパーさんの送迎が交通渋滞で時間がかかり、トイレなど困ることが多くありました。 ●免許を取るのが難しい人が多いので、公共交通機関が不通になると通学や就労先に通うことが出来なくなり大変でした。 ●坂町の障害児者は通所も通学も行けなくなり、町内の自主的なデイルームで過ごしました。広島県手をつなぐ育成会の保護者も毎日ボランティアに通いました。 ●被災当初は、道路の寸断により駅への路線バスが運行できなくなるとともに、JRも半年以上運休するといった状況で、障害のある方の通所施設への通勤に苦心しました。当然、買い物等も出来にくい状況でした。(施設保護者会より) 	<ul style="list-style-type: none"> ●耐えるしかありませんでした。 ●事業所への通勤については、法人職員による送迎支援を行いました。が、道路の寸断によって通行できる道路を迂回するため通常の2倍以上の時間を要しました。こうした移動困難に対して東京社会福祉協議会知的・発達障害者部会のメンバーがボランティアで送迎支援を1ヶ月間していただき大変助かりました。(施設保護者会より) 	-	<ul style="list-style-type: none"> ●知的障害のある人で運転免許を取れる方は1%もおりませんので、公共交通機関がとても大事になります。また就労先などは広島市内に多く集まっています。呉や安芸高田市などからも広島市内に通勤しています。特に呉線は代替のバスなども渋滞や混雑で利用するには障害者にはハードルが大きく、以前はあったフェリーもなくなっていたりしてとても困りました。瀬戸内海沿岸の道路がだめになった時に海路はとても安心して使える公共交通機関だと思います。国の支援などで海の交通網をもう一度見直していただけたらと思います。

○ 豪雨災害関連

団体名	1. 災害発生時外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
全国脊髄損傷者連 合会広島県支部	スーパーにある屋根付きの身体障害者 用駐車スペースを身体障害者以外の人 に占拠されて入店するまで余計な時間 が掛かった。	当該駐車スペースが空くまで待機し た。また、遠くの立体駐車場のある別 店舗へ行った。	しばらくの間、スーパー側が当該 駐車スペースのために警備員を配置 してくれたので、利用しやすくなった。	身体障害者用駐車スペースは車椅子使用 者の乗降のために幅を広く取っているの に、それ以外の人による使用が多い。警備 員の制止がなければ、このような使用は止 まらない。 昨今、気になっているのは身体障害者以外 の高齢ドライバーによる当該駐車スペース の利用である。このような高齢ドライバーは 脚力が弱っていると思われる、つまりアクセ ルとブレーキを踏み間違える事故の予備 軍ではないかと思う。
広島県身体障害者 団体連合会	A、上下肢半身麻痺—自宅が床上浸水 で最寄りの避難所内のベッド、トイレ、車 いすの移動確保等困難である。	A、隣町の宿泊施設(かんぽの宿)に 避難。	—	—

○ 豪雨災害関連

団体名	1. 災害発生時外出する際に困ったこと	2. 対処方	3. 良いと思った事例	4. その他
広島難病団体連絡協議会	<p>(1)年に1度の「指定難病受給者証」更新の手続きに当たる時期で、病院に出向いての診断書の取得と行政窓口での申請手続きをしなければ医療費は軽減されない。普段利用している公共交通機関が使えなかったため、高額タクシー料金を支払い病院や行政窓口に向かったケースがあった。</p> <p>(2)広島市内から東広島市や呉市にマイカー通勤していた患者は、あらゆる通勤経路が遮断され、また通行できるルートも深刻な渋滞で大変な状況が長期間続いた。</p>	<p>(1)難病患者会や各県にある難病連が加盟する「日本難病疾病団体連絡協議会(通称JPA)より厚労省に緊急要望書を提出し、「指定難病受給者証」の更新手続期限を数か月延長することになった。</p> <p>(2)他に手段は無く、長時間車内で過ごして長時間かけて職場へ通勤せざるを得なかった。</p>	-	<p>本アンケートの前提は「移動等円滑化」への影響だけであるが、例えば、移動ができて避難した先の避難所等がバリアフリーでなかったことや、合理的配慮に欠けた対応であったことなどの事例がある。</p> <p>移動だけでなく、移動先の受入体制も含めて各省庁が連携してシームレスな対応策を検討して実効性のある対策を取っていただきたいと思います。</p>
障害者生活支援センターてごーす	<p>電車やバスに乗っているときに災害等が起こると字幕等でのお知らせがないため、なぜ止まっているのかが理解できない</p>	なし	近隣住民との連携が取れた。	<p>介助者が公共交通機関を用いて利用者宅を訪問する際、遅刻することになったり、迂回するために交通費が増えたりということがあった。</p>

○ 新型コロナウイルス感染症・豪雨災害関連

団体名	コロナ関連		豪雨災害関連	
	1. 上手くいった事等	2. 上手くいかなかった事等	1. 上手くいった事等	2. 上手くいかなかった事等
(一社)中国旅客船協会	-	-	<p>臨時ダイヤ、付船運航などグループ各社の協力により比較的早い段階で対応できた。行政・関係各所・グループ会社との連携により港の業務・体制崩壊にはならなかった。ホームページをうまく活用し予約制度・便案内など利用者へ伝えることができた。(台風などの際に増える問い合わせに対応できるよう。余裕のあるサーバーを使用)</p>	<p>港窓口(切符販売)、棧橋(特に誘導員)の体制づくり ※港のスタッフにも被災者がおり、前例のない事態に対処するため体制づくりに時間がかかった ※航路経営に余裕があるわけではないので、港の人員配置・人材確保にも限界がある。 港湾施設が他の港との共通仕様でないため、他の地域の船をもってきて使いたくても使えなかった。</p>
広島空港ビルディング株式会社	<p>(実施していること) ●エスカレータの手すり、エレベーターのボタン、触知案内板、筆談ボード、多機能トイレ、トイレの消毒 ●車いすやベビーカーの消毒。使用しない時は、ビニールを被せ飛沫が付着することを防止。 ●ターミナルビルの到着ロビー及び出発ロビー、チェックインカウンター、保安検査場、店舗に手指消毒液の設置 ●カウンター、券売機前にソーシャルディスタンス確保の床表示サイン設置 ●密集防止、社会的距離の確保を呼びかけるサインスタンド設置 ●案内所で新型コロナウイルス感染症対策の取組に関するアナウンス ●カウンター前に飛沫防止の亚克力板、スタッフフェイスガード、マスク</p>	-	<p>(実施したこと) ●滞留されたお客様へ ・寝袋、毛布、食料、水を支給 ・高齢者、お子様連れ、女性には会議室等を開放 ・スタッフが巡回し、お客様からの問い合わせに対応 ●アクセスの案内 ・ホワイトボードによる記載 ・空港スタッフによる案内(拡声器等を使用)</p>	<p>(上手くいかなかった事や他の参考事例) ●紙おむつやミルク、エアーマットを追加購入 ●多言語対応ができるよう、多言語化対応防災放送装置の設置</p>

○ 新型コロナウイルス感染症・豪雨災害関連

団体名	コロナ関連		豪雨災害関連	
	1. 上手くいった事等	2. 上手くいかなかった事等	1. 上手くいった事等	2. 上手くいかなかった事等
岡山県	-	-	-	<p>豪雨災害後に県内の障害者団体との意見交換を行ったところ、避難所におけるバリアフリーが不十分であることに対する指摘が多かった。</p> <p>例えば、体育館が避難所である場合に段差が多いとか、トイレのバリアフリーが進んでいないというもの。</p> <p>また、障害がある方の中には、使用する機器の関係で電源を必要とする方があり、電源の確保が必要であるとの指摘もあった。</p>